

門二二
番
巻

栢

勅老清伽雙紙下目録



- 一 時の救自然れ救乃り
- 二 交會術の事 スケ條
- 三 蚊帳縦横く布救く幾尋約とまらる事
- 四 境内の町救とまらる事
- 五 道路里程之事
- 六 曆術と不用志て何うか磨とまらる事
- 七 多の年救月救日救を速よ承る事



今田文庫



卯加又氏下

八 五里儀十三七の事

九 変数残る事 四ヶ條

十 堆積乃事 五ヶ條

十一 三十三所乃観音倍増賽銭の事

十二 将棊盤百倍増米数の事

十三 算盤はむらびはぶらぐらる事

十四 六羽まであさふ乃玉帳をみる事

十五 變法の中

十六 榊木の目付け事

十七 名香六十四種の日付け事

十八 俵数を増やく板形はむら

十九 割賦算の事

二十 昔分乃豆の数をみる事

廿一 同豆の数をみる事

廿二 弧背と眞術事 二ヶ條

勸者沖仙雙紙下目錄終

勸者沖仙雙紙下

一 時の救自然れ救る事

ころしと秋の暮あふれこぞ急知葉乃らさといつら
 何れしよさうれ本たふ乃時氣とゆりしとさうさ
 われよはあつあるはちうけりうさあそ一のこひ
 うさあしあどさう折坤友さちむせはさあう四方
 山里の相経とあへしはる破うりさといひ詩まど
 さんどいとむら海どく物人あさわうさぬ休は虎溪乃
 三笑とさうあうとといひはるさ目とあませはう
 晚鐘とやどちうしといさうさやくさるの鐘乃音



下又水

沖天

うほびきしし耳よゆる事なまはしめけりひしうの
 りあふ今にげこころ種の高ま付るつらゆしんし
 くれさむむをよ用のありし時の救はうらうらうと
 涙よつげくをうて写すよらるる流し又九うとらあめ
 是のいりあるうらうらうと悦まらうしうてうと
 くものやゆき紙をきくことありしうの何のむと
 ちまふあんとしうの酒よほくまるとあし
 うらゆししれひしうらひ事なまはしめけりひし
 おゆる中よりしるる人あつしうとたぐはし
 とそげふししとまふしうとまふしうとまふしう

算司あごのまふしうとまふしうとまふしうとまふしう
 人しあごのまふしうとまふしうとまふしうとまふしう
 おりひるしうとまふしうとまふしうとまふしう
 まふしう

術曰列二十五内減時數餘以時數乘之
 八十五餘以時數乘之以減三千三百二十五餘以
 時數乘之以減一万一千二百五十四餘以時數乘
 之以減一万五千一百餘以二十約之得次時數也
 たとへは四の流しをいくはうらうとたぐはし
 四と減しつらうと三十一とたぐはし四とたぐはし
 四と減しつらうと三十一とたぐはし四とたぐはし

儀又紙下
一

乃前此淑ふらう時りも次この時乃救せ
 やよ様救と井かろあり
 侍らあり

心い予婦うつけぐこのころやひよりうごちう通よのこからう
 してころちるじきでよさ興義とををあげこよひこ
 け時の救めと自れの理やあつことふありひをううふ
 所めくむごしそくくゆるは淑よむゆのまあがらうふ
 きのまのうまよせくくくうめといこけくくく
 きううぐ月ましくりれはまてぬの人く同音よき高
 妙とよめまはくはたとくうけで撲をめたか引く
 志のめやうくまことまよせふとらうけちやせん

河とるもたらう

(二) 交會制乃事一みケ條

たよの借不有くすまと節のよ一人ハ九日ト一人ハ十二日
 ごとまあり今日あ人おま也又何日と終くおまよ高う同

答云再會三十二日
 九日の方三友也
 十二日の方三友也

法曰九日と十二日と互に引合ての寺救三日と淑と淑
 九日と十二日とくけ合て百八日とあると法よりこれハ三十
 六日とある也是法九日よこれハ四友とまう又三十
 六日と十二日よこれハ三友とまうなり

たとへば京より江戸まで百二十三里あり京より下りて七日
とふ十二里歩利四日とあるは江戸より登るを八日とふ十二里
歩利今も歩いて五日目より江戸まで又各の里程と同

下りて七日目 道八十四里

登る七日目 道三十九里

詰曰京の老十二里と歩いて四日とこれば四十八里とぬきと百
廿三里乃内ふて減して残り七十五里と實とこれ江戸の老十
三里と歩いて京の老十二里と加して二十五里とあると法と
して実残り江戸の老三日とあるとあり是より四日と入る
京の老七日とある也又是より京の老十二里と歩八十四里と

得る也是と百二十三里の内ふて江戸まで三十九里とあると
たとへば牛馬あり毎日歩る牛ハ十里馬ハ八里よりして牛ハ老一
日と三日あり了る今もかく五日毎に牛ハ追付と同

答云五日

詰曰牛の十里と歩いて三と馬の二十里とぬきと實とこれ
るのナ八里の内牛の十里と江戸まで八里と法とこれ
実とこれ六日とあるとあり

たとへば周百里の池あり是と牛了印ド方へ廻る日毎は歩る
牛ハ八里と三十里あり今日一歩と歩いて又五日毎に再會と同

答云四日

法曰るの三十里の内牛乃み里とてうて沙里二十五里と法と
して周百里とてれば四日とてうてあり

たとて周九十六里の池あり乞を羊廉牛の一方へまうて
日とてあてて羊の二十六里廉の二十五里牛の十一里也今
一ふまて又幾日とてて各再會とて

答云二十一日

法曰羊廉乃歩九里と廉牛の歩る二十四里と互に
合て等敷三里とてうて法して周九十六里とてれば
二十一日とてうてあり

三 牧場被積し布敷る幾許約とてうて奉

牧場四布よ六布とて幾許はうて六布よ六布とて幾許はうと
いふを術と接ぎうて被積の布敷をうけ合て定て十二坪
てうて幾許はうとてうて定て五分と定法とて

四 境内の町敷とてうて奉

たとば三町よ八町の境内は町敷何程あるかと問
片論四面の町敷

答云 三十八町 併法とてぬけあり
五十三町 併法とてぬけあり

例曰三町よ八町とてけ倍して二十町とてあり是よ三町と
八町とてうて三十八町とてうてあり併法とてぬけあり
かぎりのあつて三町よ八町とてけ二倍して八町と三町と

加へてふ十三町とさうありはきぬけしりかき町の前よ
 又一通りあるとの事

五 道路里程之事

塵劫記といく曲尺六尺五寸とさうし六十町と二町と一二十
 六町と一里とさ或人の云伊勢及四十八町と一里とさと云傳
 とう近曾一算士の説を皮よ伊勢及四十八町といふ傳なり
 了子等早の類ありさる事とさゆかるといひあすあ各
 東海及の里程は曲尺六尺とさうし六十町と二町と一二十
 六町と一里とす伊勢及たが六尺とさうし六十町といふ
 よく御救ハ東海及の里程ありとさうし六十町といふ伊勢及の

一里ハ六尺五寸の二十九町といはるるなり一里とさふ三町多し
 伊勢及の十二里ハ東海及の十三里とあるありいふ御救あて
 四十八町と一里とさるといふと考ふと山田外文字内及の
 四十八町とさるといふ人一里と稱さるなりあるありと
 といふ又或儒のいふ西国ハ四十八町と一里とすといふ又
 延喜式東海及の又尺と記さる事とさうし六十町といふ
 一町と四十又也といふとさうし六十町といふとさうし六十
 町とさうし六十町といふとさうし六十町といふとさうし六十

六 曆術と不用とて何れか曆とさる事

九年いふのたるとさるの心る曆といふ古曆とさうし二月の十の

干支が即當年の正月朔日の干支なり故に二月の大小と新
正月の大小と右三月の大小と新二月の大小と後身はあつた
又朔は右曆正月朔日の干支とてその月大なるは干支は
又九月朔日小なるは干支は四月朔日八日と新正月の朔日の干支と
あつたなりと右曆正月朔日甲子とて大なるは戊申小なるは丁
未と右曆一月初二十四日たると右曆三月甲午あつた干支
三日又七月の丙子と當年の三月とて一他一を氣の
入時刻は右曆より六七刻先立也右曆世の二刻はあつた
一日あつたとて一初めのとてきて月の内は中氣あつたと国月と
定むる也又別は国月と推測あり當年は冬朔の日教とて

定法二十九日の内と減ドて修つたは四日は正月の国月と
定むる也當年乃冬朔十八日以後は孫が来る年国なり

七

多乃年教月教日教を速く求むる事

神武天皇辛酉の年正月朔日庚辰は法位は即陰あまの
享保十六年辛亥の正月朔日乙酉とて年月日の教を向

答云 年教二千三百九十一 月教二万九千六百八十一

法日前の辛より後の辛までかぞへて十一と得ると干支は
修り二とたると又前の酉より後の亥までかぞへて二つは
たると亥の教は十二つかぞへることとなりたると同教は

即れ又式下

あるものか加へて今西交 六十一とある叔孫武天會よりうらん二千
 二四百年改とある方より先へて先六十一甲好 九十九
 二千三百四十と加へて二千三百九十一年とある又月救残考より
 六年救の内一と減して定法二百五とゆへて六十六万千
 六百六十と加へて十九とすれば二万九千六百六十不と得る
 一月加へて月救とある他二百五と十九と一 章十九日と月救と
 ある月救の内一を減して定法二十九日と六とゆへて
 八十七万二千九百二十日もを本日己 を得る二日と加へて日救と
 ある叔合否と試むるは佳右の正月朔日庚辰より後の正月
 しせとの救とある例に於て四十六を得る叔合の八十七万二千九百

二十六と書六十一は漢よりありて不を四十六と得るはと向救
 也合算とある也ある否算の乞と相減して得る
 一と二と得る若し乞と日救を加減して得る日救とある又
 北九及前月の救と得る若し月救は一月と増損して得る定法
 一と前月の月救と加へてその月救とある年れ月救と
 お減り十二と得る若し月と得る十三と得る若し月と損する
 以て日救とあるも前より又国月の救とある年救の内一と書得る
 七と得る十九は割不るは捨て国月の救とある也
 八 五里儀十三とある事
 九 変救残考の事 四ヶ條

たとの象戯乃約四十枚とひくとちびぐて表裏の變救何程と向

答云三十三万六千二百六十八百

御曰玉三金五銀五桂五香五飛三角三歩十九

た八口け合せて得る是各物約よ一葉たとの銀一枚桂一枚香一枚

あれは是とひくとちびぐふ

銀桂香 金桂香 金令香 金令香 銀令香 銀令香

變救八品ありけ那の何夜なびぐても變るあ

たとの金銀又文銀後四文銅後三文是とひくと投て表裏の

變救何程と向

答云百二十品

御曰各の錢乃救とててて一葉を如うけ合てする也

たとの葉梅七味あり二味と一方は紙き時の方何程あると向

答云三十五紙

法曰一二三相系て六とあつと法とす七六あけ合せて紙百

けとあつと法とす割の紙救きるとあり

たとの十柱香の香目乃變救と向

答云五万六千八百品

法曰一二三四五六七八九十お系しと三百六十二万八千八百と

あるを實とす一乃香一二三お系しと六とあつこの香一二三

お系しと六とあつこの香一二三お系しと六とあつ家の香一

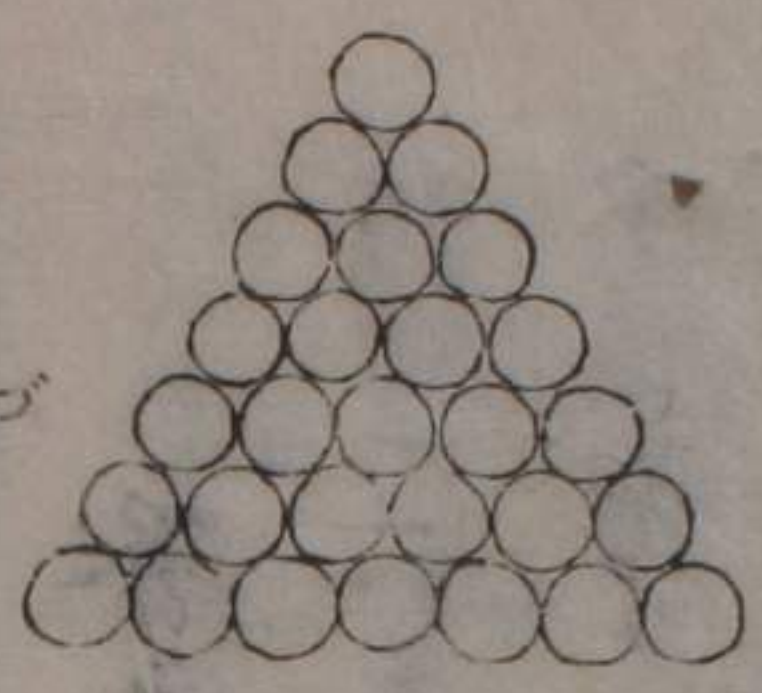
竹又竹

大四位お糸一々二百十六を添へて一々突とこれの要敷
ありあり

十 堆積の事 五ヶ條

たとふを算のぶとく三角並の周十八箇より一々惣敷と問

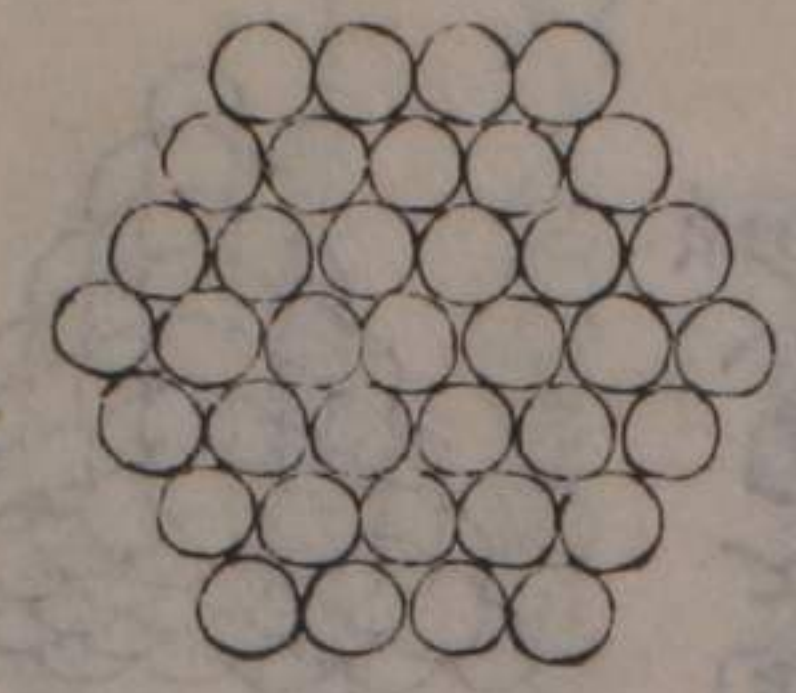
答云二十八箇



法曰周十八箇と左によきて右に二箇加へたに
六箇加へ是と相乗一々又百〇四とありこれと
定法十八よりこれ惣敷ありあり

たとふを算のぶとく一々算あり周十八箇より一々惣敷と問

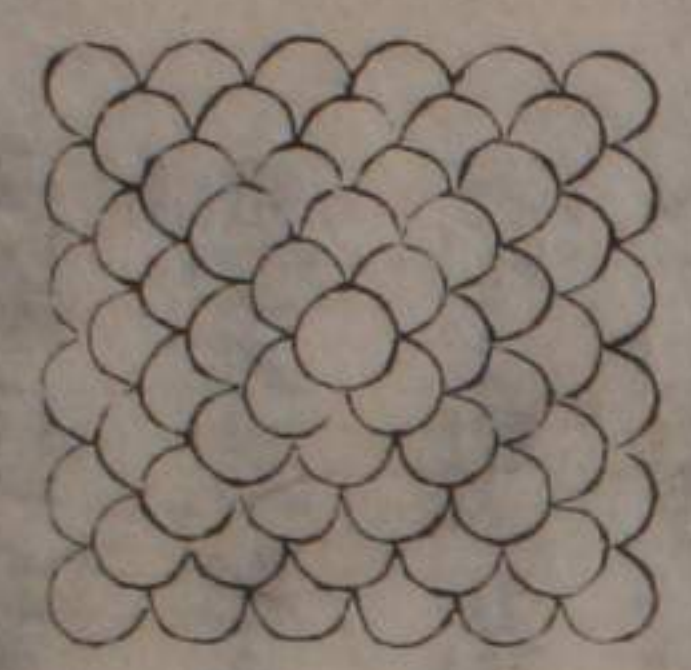
答云三十七箇



法曰周十八箇と左によきて何方へありとも一方一
六箇より左に右糸一々四百三十二と数は法
定法十二より割得敷は一箇よりして惣敷とあり
あり

たとふを算のぶとく四角堆積の下一通より六箇より一々惣敷と問

答云九十一箇



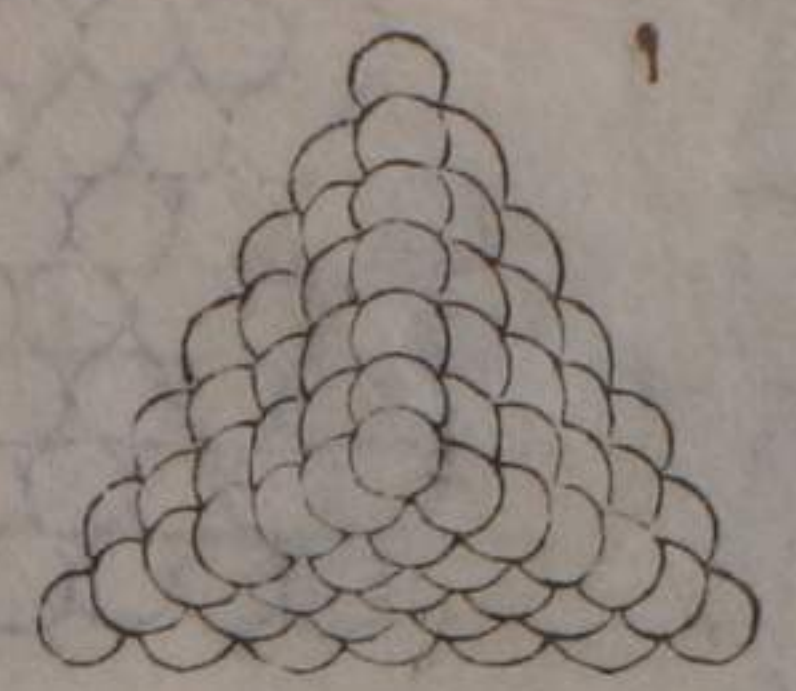
法曰下一通りの六箇とよきて是と倍して三箇
加へ六箇とあり九十九とあり又一箇加へ六箇と
くれぐれ又百四十六とあり是と定法六つよりこれ
惣敷とあり

竹又竹

又術曰一箇とたふよきてたふ二箇加ふたの是と倍して一箇
 加ふたふよきて九十一とある是よ一箇とくれば又百四十
 六とある是と定法よらると同なり

たふの是のぶとく二角錐切を下一通り七箇づりて惣數と同

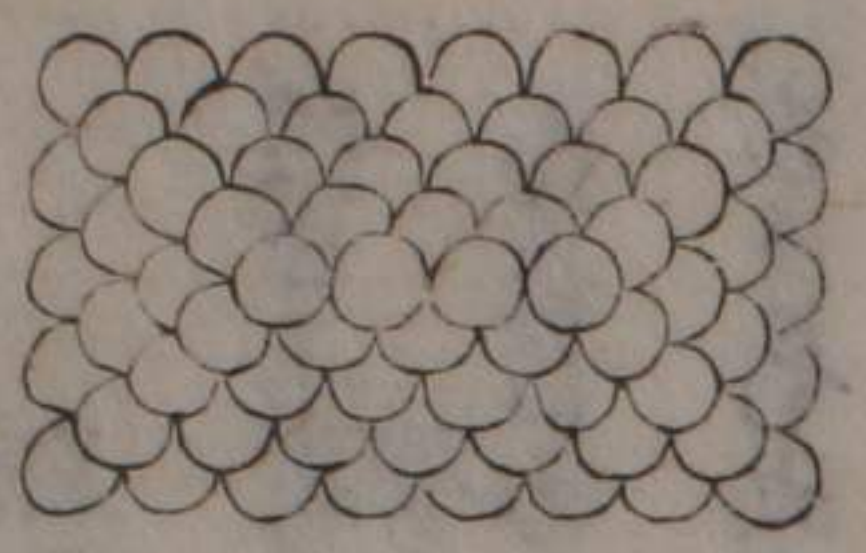
答云八十四箇



法曰下一通り七箇とて三箇加ふ七箇とくけて
 七十とある是よ二箇加ふ七箇とくければ又百〇四と成
 是と定法よらると惣數なる也
 又術曰七箇とたふよきてたふ一箇加ふたの二箇
 加ふ是と相乘して七十二とある是よ七箇とくれば又百〇

四とある是と定法よらると同なり
 たふは是のぶとく直錐切を各下一通り一箇加ふたの是
 して惣數と同

答云百箇



法曰一箇とて一箇加ふとくけて又定法よらると
 一箇加ふて百四とあるは内一箇と一箇と惣合
 せるとたふよきて減して作り百二十とあるは内一箇
 とけつて定法よらると惣數なる也

十一

三十三所乃銀音倍増賽銭の事

番の銀音よらると系法一丈二寸とあるは

四文うくのぶとく倍増ありて三十三ふの惣系法と同

系法八百九十四万七千八百四十八貫六百三十一文
答云

十二万五千七百七十四貫百八十二文三分余

法曰三十二目の系法四文とたふよとさうけ合せて十六文とあるは
みま目の系法あり是とたふよとさうけ合せて計百六十六
あり是九ま目の系法あり是とたふよとさうけ合せて六
又三六とあるは十七ま目の系法あり是とたふよとさうけ
合せて四二九四九六七二九六とあり是三十三ま目の系法あり
是と倍しつゝ八五八九九三四五九二とあり内一を減しつゝ沙羅百
己上の九分六厘より除き八百九十四万七千八百四十八貫六百

き又とあるは系法の惣数あり又百己下と九分六厘より除き
十二万とありは惣法よなるなり

十二 将棋盤百倍増米数の事

たとへば小將棋の盤面よ米とをむよ最妙の一粒は二粒三日の
四粒うくのぶとく倍増ありて八十一日よ米何れ米数何程と同

二京四子百七十八万八千六百六十三兆九千二百二十九万
答云

二子五百八十三億四千九百四十二万二子二百八十一粒
又此の米数と種ありあす時三十八兆八千七百四十五万
三子百八十七億六千七百二十七万八千九百九十三万七千
一掃と不満三万八千七百七十一粒あり

法曰三數目乃四粒とたふよとさうけ合て十六と成是又數
 目の救也是と倍して三十二と成是六數目の救也是とたふよ
 とさうけ合て一〇二四とある是十一數目の救なり是とたふよ
 とさうけ合て一〇四八五七六と成是二十一數目の救なり是と
 たふよとさうけ合て一〇九九五一一六二七七七とある是四十
 一數目の救あり是とたふよとさうけ合て一二〇八九二八一九六一
 四六二九二七四七〇六一七二六とある是八十一數目の救あり是と倍
 して内一粒を減して沙里熱米救とあるあり是と六万二千
 六百八十粒一万八千六百三十四を除去除て餘目とすなり

十三 算盤よむくひはぶおのぐる事

一、人の算盤よむくひをたのまうよ一をひくとくらべてはわら
 二十粒目よりうてあるひは八ありひは九と得ると血氣さかんぬ
 ありぶふ四又日まくとさうといつり予是をかんがかりに甚偽
 あり人力の及ぶところよあり決人二百年ぬらうとも又代
 或は十代ありて申くよるふとにあらざる故よと大畧とん
 えてあるまるともくくく試むと欲きり老の呼吸と吟味
 してんぐべー先呼吸を夜よん二万三千五百息天經或問よと
二万六千二百息
 歳周凡三百六十五日と一息よつくとん四十ありは夜よ
 ん十四万也志るれ一年よ一億九千七百十万よつと是よよりうて六百
 億年よよりうて漸二十粒目よ一餘と得ら故よ三十一一世の
救ありとん

六百億年と除て二十億代かゝるる成る況や九は満とや

十四 解きあさぬの巻帳をさる事

我が大人といふ時ある人同く
あさぬの巻帳一冊ある人甚だむ愈
大さあるは解いて愈いむ故は後
一寸十文を一人一文といふは後
一寸の紙は何程かといひ一は大人即時
解きあさる事十本の骨は命とて
より一寸一寸と守と況牙はあて板より一文二文三文とい
ふは何れの時六文はあつと答りれ



十五 興法のみ

たとへば金より古来を并み合と合は焼くと飲せり
そ水何程と問

答云水并并九合三白七文又

術曰来の体固とて起て是は九倍して定法二倍とて
得救を八つはそれの体めさるありきりれり
又火は焼く事ありきりれり故は強よ合たり
初めちろく中らるる親の事ありきりれり
より他一握の入合と細事なくと少くあを控

十六 揚木の目付乃事



花の目付の事乃どく又枝の内一枝どのさくら木のぬみや
いばせしとおぼろげとはあまある志をうぢててぞうるを
いふまをうまて各をまよ方字の教よとぞす花よを字を教よ
とる也を教のぬやうい下より最妙の枝よと定め次の枝よと
定め三の枝よと四と定め四の枝よと八と定め五の枝よと十と定
むる也極人よ一字目と付させて各字の枝よふ花よありうまよ
あつうと問よをうまて人たといは法の字よを付るなれ八の枝
よしてはまよあつうといふ故よ教よとぞす極一の枝よては花よあると
いふ是と二とおほえめて又三の枝よてはまよあつうといふ故よ教よ
とらむ四の枝よては花よあるといふ是と八と定めて又の枝よては

花の目付の事乃どく又枝の内一枝どのさくら木のぬみや
いばせしとおぼろげとはあまある志をうぢててぞうるを
いふまをうまて各をまよ方字の教よとぞす花よを字を教よ
とる也を教のぬやうい下より最妙の枝よと定め次の枝よと
定め三の枝よと四と定め四の枝よと八と定め五の枝よと十と定
むる也極人よ一字目と付させて各字の枝よふ花よありうまよ
あつうと問よをうまて人たといは法の字よを付るなれ八の枝
よしてはまよあつうといふ故よ教よとぞす極一の枝よては花よあると
いふ是と二とおほえめて又三の枝よてはまよあつうといふ故よ教よ
とらむ四の枝よては花よあるといふ是と八と定めて又の枝よては

漢字の
読み方

十六

香よ者よ言故よ敷よさうぞ扱よの二と八と合て十と敷をよらうて
 志のあそとらうよおほえかてむの内よそおびとてうぞあうよ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七

さくら本のぬきやいげととおほろけ
 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一

字よあうらう故治の字あうらうとらあうあうひん又との字あり
 目とほくらあねが二三の枝よとら各まあうあうて花よあう四乃
 枝よの枝よてい花よあう故四の枝乃八よの枝乃十六合て廿四と
 あう故よ志のあれうらうらう二十四あ目との字よあう故との字
 なるらうとらあう故の字よあう中の中のと奥のあう
 終らうとらあう故の字よあう

十七 名香六十四種の目付の事

但一蘭奈待ハ赤大ちと同香也
 又とらこまははる香の外也



香よ者よ言故よ敷よさうぞ扱よの二と八と合て十と敷をよらうて

十六

神代卷



右の目付の裏より九八箇ふるとは各花の方と一番と
 定るあり即ち右の龍。花橋。法隆寺。法苑。八橋。
 蘭奈待の道達。中川等ありそれより各二三四五六七八と
 等のとくさつめとあり



七又。龍田。紅塵あり何のりわけ例は同じ

極目付のまうやうの表の目と人よとせし何の丸の内よ
 目と付るごとく同じよと人たとは十六夜は目と付るあれば
 第四の丸の内よ目と付るごとくありまうれは目と付るの四と
 五と極又裏の目よ何の丸の内よ何の目と付るごとくあり

神代巻

中一の丸の内よありといふきつれいそ丸の内よてうのええ
わの四と四最目よ當道いすみ夜とらんあつや八すみ夜あり
一といふなる竹うの管是又仰

十八 債數と倍あり枚形よはむ事

たとば米計百八十八債と下れ多くおほううぬやうは竹うあり
枚形よはむ事と上下の債數と問

答云上のとあり二十八債 下のとあり廿六債

注曰債數計百八十八債とせて二といひ累除て是とらんこと奇
奇數乃奇偶算のあり九と得るとたよとて是めて債數と
除得數を倍して六十四とあるとたよとてとてたたの

數を足ておほき方と上下の債數の和とよりあ少き方ハ
一といひ上下の債數の差とて是とたよとてとて六十四
四よ加減して二つよとねい上下の債數をあり又ゆめよ
債數とらんよ奇數あるとの別は術あり是かどうおや即自約の術よ
ありさればとあひうとてとてよのせぎ

十九 割賦算の事

右の一大坂又割賦とて人ありて當道うの四と自形諸を
さうの積うとてありうの極うたの算とて術とてゆいふ
即當うの事よ四とてけり得數とたよとて又も形諸の
事よさうとてけり得數とたよとてさた合をけりて

はりのりりて扱銀四拾七貫目ある時

四方の方亦六貫目也

答云

六方の方亦六貫目也

六の負^{かい}了^{たう}よそ六^{たうけ}峠^{たうけ}の^{たうけ}張^{たうけ}ある^{たうけ}也^{たうけ}は^{たうけ}何^{たうけ}也^{たうけ}の^{たうけ}術^{たうけ}と^{たうけ}用^{たうけ}の^{たうけ}も^{たうけ}あ^{たうけ}あ^{たうけ}う^{たうけ}是^{たうけ}も^{たうけ}う^{たうけ}お^{たうけ}は^{たうけ}さ^{たうけ}と^{たうけ}あ^{たうけ}く^{たうけ}あ^{たうけ}さ^{たうけ}と^{たうけ}無^{たうけ}術^{たうけ}と^{たうけ}さ^{たうけ}る^{たうけ}也^{たうけ}

又たとへば六の負了よそ扱銀九十四貫目あると云々神めの術よそ六

答云

四方の方亦拾七貫目也

六方の方四拾七貫目也

六のどくよその方備了^{たうけ}う^{たうけ}う^{たうけ}と^{たうけ}云^{たうけ}貫^{たうけ}目^{たうけ}お^{たうけ}は^{たうけ}一^{たうけ}

又たとへば六の負了よそ扱銀九貫九百目ある時後の術よそ六

答云

四方の方を兼三百目不足也

六方の方拾七貫目也

六のどくよその方を兼三百目はう^{たうけ}お^{たうけ}て^{たうけ}六^{たうけ}の方^{たうけ}扱^{たうけ}銀^{たうけ}あり^{たうけ}と^{たうけ}云^{たうけ}兼^{たうけ}三百^{たうけ}目^{たうけ}お^{たうけ}は^{たうけ}一^{たうけ}く^{たうけ}れ^{たうけ}よ^{たうけ}く^{たうけ}ら^{たうけ}を^{たうけ}兼^{たうけ}と^{たうけ}後^{たうけ}類^{たうけ}よ^{たうけ}そ^{たうけ}云^{たうけ}る^{たうけ}べ^{たうけ}一^{たうけ}

二十

言分^{せうぶん}の^{せうぶん}豆^{まめ}の^{まめ}扱^{あつか}と^{あつか}云^いる^い事^{こと}

たとへば當年^{たうねん}八十四^{はちじゅうし}ある^{ある}人^{ひと}去^さゆ^ゆの^の言^{こと}分^{ぶん}よ^よそ^そ年^{ねん}く^くよ^よい^い一^い豆^{まめ}の^{まめ}扱^{あつか}と^{あつか}云^いる^い

言分又云

二二四

戸又下



とてをいひたうて
まふくぬ

まふくぬ

二五

江戸
又
紅



四十三
くらねの
やぶ

い
ま
ま

い
ま
ま

江戸
又
紅

答云二千六百八十二粒

法曰八十四とたふよ垂てたふ一とくろくたふ二とくろく相乘
して得粒こつよ割内三と引ハ粒と豆粒とさるあり又
八十四とたふよ垂てたふ一と引たふ四とくろくお乘して
得粒こつよ割も何しり
按ずるん人し思たる年の昔より今
りて豆三粒とくろく過て一塔より更よ粒
算よたとてよのともう三倍下ハ
る年よ一塔の倍粒と算する御也

六一 同豆の粒よて年粒とさるくろ

たとび去年より今年までくろ一豆の粒四子草二粒也今年
幾粒よあると同

答云八十八粒

術曰云粒よ八とくけて定法二十又とくけて平方よ用紀
得粒の内三と減して得るこつよ割も年粒とさるあり
此一曲入平方と用かり付いと
ころも極めて不致なくすあり

六一 弧背真術事 二ヶ條

假如有弧矢一寸徑一尺間背幾何

答曰背六寸四分三厘五毫。一忽一微。餘

術曰列矢乃視矢多於中周四分之一矢者與徑相
減相乘開平方所得以減半徑餘爲小弧
矢依術求其背所得以減
半中周餘得所求之背也
二百七十六段加入徑一
千。六十段以矢乘之加入徑昇三千八百八十五
段以矢乘之加入徑再乘昇二万二千。五十段以

矢乘之以減徑三乘昇五方一千九百七十五段餘
 以矢乘之四之為實列徑二十三段內減矢二十五
 段餘以徑昇一千五百七十五段乘之為法實如法
 而一所得開平方得背合問乃周率三箇一四一五
 九三二三八四六二六四三三
 八三二七九五〇二八餘也

假如有弧背六寸四分徑一尺問矢幾何

答曰矢九分八厘九毫五絲二忽一微一纖強

術曰列背乃視背多於圓周四分之一者用減半由
 乘開平方所得以減半自之以徑除之寄位列背昇
 徑餘得所求之矢也
 三百六十段內減寄位昇二千段餘以徑乘之加入

寄位再乘昇以徑五十六段乘之內減寄位三乘昇
 餘為實以徑再乘昇八方〇六百四十段除之得矢
 合問

右二術以真數驗之當山容方四邊矢及背者七位
 合也又矢當徑二十五分之一者十位合也百分之
 一者十五位合也千分之一者二十一位合也如此
 矢及背愈微則愈合也故猶欲得真數多位者宜依
 折術折術見後求之也
 折術曰列矢以徑乘之為一次折小弦昇以減徑昇
 餘開平方所得以減徑餘折半之為一次折小矢亦

何れも

三十七

以徑乘之為再折小弦以之求再折小矢依求背
 術求小弧背四之如一次折者倍之為所求定背也
 又列背折半之為小弧背亦折半之為再折小弧背
 依求矢術求小弧矢與徑相減相乘四之為小弧弦
 弁以徑除之為一次折矢之為定矢也以之亦求
 弦弁以徑除之為所求定矢如三次折者以之亦求
 也弦弁以徑除之為定矢

合問

勘者清伽雙紙下卷終

勘者清伽雙紙跋

洛乃慶士中根先生の督督の時志ともり
 又白山君の業と結して道小精と研ありいと
 覃くまると堂雪年ありむといひ雲窓灯
 下の法書く平素久史の算活算戲百餘
 件と集り毎一ふれ又法例を附くも確よ取
 繕て三巻とて幼老に伽双紙と發けこれと
 首底と投して背く人よ脈とあ余久く

先生の荆蕪と得る常々往來するより先生は
 い書ありとて観ひせらぬ求く酒をうると
 獲るる退て披讀よそまき字とりて紙一
 間隔り快どうし親覽よ便す先生は志し
 初より書を蒙致りすよあきとそ法乃妙意
 你造乃すを捨盤せ人のり余一唱三嘆き
 手看ひ足踏む顧よい書の巻版よ算ゆ
 こと慮り遂よせん生よ得て梓よ没せよ

弘めんとそよ先生固執して曰是片壁殘
 穢固よ煥必の親ぬ此を捨ると大方の家
 献せと紙よ二削の忠心あんのと余再三
 強て遂よ剗削をうると得ぬ紙よ初字乃
 是是小うてそ靈臺の璞と彫琢せら何そ
 万益の實もなるとらんや此先生を撰述乃
 初志あり

平安 書林 葛西某謹題

竿頭算法一冊

中學算法答術
中根先生撰述

發行

寬保三癸亥年正月吉日

寺町通五條橋詰町西側

平安書林天王寺屋市郎兵衛吉壽棹

水玉堂藏板曆算書目

京都寺町五條上九町

天王寺屋市郎兵衛

算學啟蒙

元朱世傑

三冊授時曆經

元史曆志

四冊

括要算法

関孝和先生

四冊庚午元曆

同

嗣出

發微算法演段諺解

同右

四冊授時曆圖解發揮

中根元美先生

三冊

算學玄訓

同右

近刻三正俗解

同右

一冊

七乘巾演式

中根元美先生

二冊授時曆俗解

同右

嗣出

竿頭算法

同彦循堯

一冊曆學私言

同右

嗣出

勘者御伽雙紙

同右

三冊皇和通曆

同右

三冊

開商點兵算法

村井中津堯

二冊

附錄

古曆三法元嘉曆儀鳳曆大衍曆
五紀曆宣明曆諸曆通術

算法童子問

同右
御伽雙紙後編

五冊

曆學法數原

中西敬房
授時曆補闕

五冊

精要算法

雄山藤田先生
關流真術

三冊

漏刻說

櫻井養仙

一冊

算法學海

坂正永先生

二冊

非改精算法

神谷藍水先生著

一冊

田祿圖經

陰山元實
和漢祿法圖制

二冊

神壁算法

藤田龍川先生
附解惑辨誤

二冊

數學端記

田中佳政

五冊

掌中鈎股要領

同右
初本

一帖

開承算法

池部先生
竿頭算法答術

一冊

五種算經

孫子算經 五曹算經 海峴算經
五經算術 夏侯陽算經

新編塵劫記

吉田光田原本

一冊

改正天元指南

雄山藤田先生改正

五冊

算法鈎股致近集

若杉多十郎撰

一冊

袖珍算法

東岡先生
日用算小本

一冊

懷算至法規矩

析本

四帖

再訂算法

藤田龍川先生
算學小筌別術

一冊

近道懷中算

兩面摺
近刻

一枚

尚書天文解

田文瑟先生

嗣出

家業算用集

近刻

一冊

撥亂算法

神谷幸吉定著
算法部類卷

一冊

八



